

編集後記

今月号より偉人伝がリニューアルし、同年代を生きた土木・建築それぞれの偉人を紹介するスタイルから、ひとりの偉人に焦点を当てて、人となりも感じていただけるようちょっとした逸話も盛り込みました。佐々木悟郎さんのイラストと一緒に、偉人たちが活躍した時代を皆様にも感じていただけると嬉しいです。今回は建築の偉人をご紹介します。お楽しみに！(I)

特集の取材で土木現場を訪ねました。CIMをはじめとする技術の進化には驚かばかり。一方、こうした施策を推し進める原動力となっているのは人間の意志と好奇心であることにも気づかされました。生産性向上は人によって更なる高みを目指しています。(E)

**発行** 一般社団法人 日本建設業連合会  
 〒104-0032  
 東京都中央区八丁堀2-5-1  
 東京建設会館  
 TEL 03-3553-4095  
 FAX 03-3551-4954  
 URL <http://www.nikkenren.com/>

**発行者** 有賀長郎  
**企画・編集** 一般社団法人 日本建設業連合会  
 広報委員会  
**制作** 株式会社Kプロビジョン  
**デザイン** 株式会社コンセント  
**印刷** 株式会社耕文社

© 2018 日本建設業連合会  
 「ACe建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

【お詫びと訂正】

2018年4月号「特集」6p上段、旧開智学校写真キャプション1行目に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

(誤) 1872(明治4)年に竣工。

(正) 1876(明治9)年に竣工。

## 海洋工事に関する標語募集

日建連・安全委員会海洋安全部会では、海洋に関する工事に伴う安全、環境対策に活用するため、次の要領で標語を募集します。ふるってご応募下さい。

### < 募集要領 >

#### 1 募集作品

海洋に関係する工事で、「環境保全と公害防止」(いずれかでも可)を工事現場の関係者にアピールできるものとします。

#### 2 応募資格

どなたでも応募できます。

#### 3 応募の要領

- 応募作品は、未発表のものに限ります。
- 応募作品数は、一人3点以内とします。
- 応募方法は、電子メール、FAX又は郵便はかきのいずれかとします。(電子メールを推奨します)
- 応募様式は問いません。(応募用紙例を日建連HP(ニュース一覧)に本要領とともに掲載しています)
- 応募の際は、氏名、職業(会社名)、電話番号又はメールアドレスの明記をお願いします。
- 応募作品の送り先及び問い合わせ先は、次のとおりです。

Email : anzen@nikkenren.or.jp

F A X : 03-3551-0494

住 所 : 〒104-0032

東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館8F

(一社)日本建設業連合会

安全委員会海洋安全部会事務局

(TEL : 03-3551-8812)

- 応募作品は、返却しません。

#### 4 募集の締め切り

6月10日(日)必着とします。

#### 5 選考方法

海洋安全部会において入選作品1点と佳作作品2点程度を選考します。

#### 6 入選作品の発表及び賞金(発表は、8月初旬を予定)

- 入選作品等は、日建連HP(ニュース一覧)に掲載するとともに、ご本人に直接連絡します。(HP掲載に際しては、入選者の氏名等も掲載する予定です)
- 入選作品の賞金は2万円、佳作作品は5千円(商品券等)とします。

#### 7 入選作品の権利及び利用

入選作品等の著作権は、日建連が有するものとし、ポスター等に使用します。

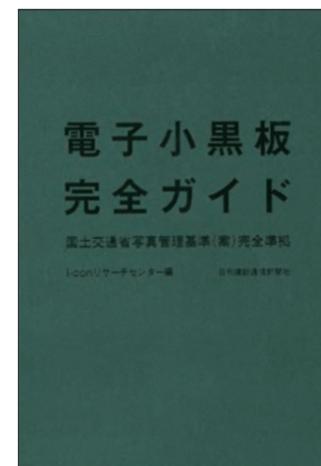
(入選作品等の内容の一部を修正する場合があります)

#### 8 その他

- 募集に際し入手した応募者の個人情報、当目的以外には使用しません。
- 所属会社でまとめて応募していただいてもかまいません。

お  
知  
ら  
せ

## 新刊紹介



### 電子小黒板 完全ガイド 国土交通省写真管理基準(案) 完全準拠

著者：i-Conリサーチセンター編  
 発行：日刊建設通信新聞社  
 仕様：B6版 168ページ  
 定価：2,500円(税別)

多忙を極める建設現場においてICTによる生産性の向上を推進する中、あらゆる現場で行われている膨大な工事写真の撮影と台帳整理の時間短縮は大きな課題の一つである。これまでの写真撮影にあたっては、国土交通省の「写真管理基準(案)」に基づき、目的別の被写体と一緒に必要事項を記載した小黒板を写し込むこととなっていた。そのため、現場での小黒板への記入や小黒板に記載した文字が判別できるように撮影すること等が苦労の一つだった。

近年のデジタルカメラやモバイル機器の高機能化により、国土交通省の発注工事において「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」(2017年1月)に基づき、工事現場における電子小黒板の適用が可能となった。スマートフォンやタブレットを活用し、あらかじめ作成した工事黒板データを撮影と同時に写り込ませる電子小黒板は、工事写真台帳への自動仕分け機能もあり、「早く、簡単に、目に見える効果をすぐに出せる」ツールとして、受発注者から注目を集めている。

日建連でも建設現場の生産性の向上に有

効なICTツールとして電子小黒板に着目し、「ユーザー目線」の調査・研究、普及活動に取り組んでいる。その成果の一つとして、データ改ざんに対する信ぴょう性の担保や電子納品の対応などをわかりやすく整理した『施工者のための電子小黒板導入ガイド』を2017年3月にホームページ上で公開した。これを活用することで会員企業以外にも広く周知し、建設業界全体で生産性向上を後押しするのが狙いである。現場の工事写真の整理は時間と手間を要する作業で、この課題が解決されることで工事現場の長時間労働や残業問題の改善に寄与することだろう。労働環境の改善に向けた4週8休の取組みの推進にも、作業時間の短縮は大きな武器となる。

本書では、電子小黒板の一般的な機能や操作方法に加え、国土交通省の施策の動向や施工各社のICT推進部門による社内展開の工夫、実際に現場での活用術など、導入から活用段階までを紹介するとともに、最終章の資料に電子小黒板アプリ12種類と先に紹介した日建連の『施工者のための電子小黒板導入ガイド』が掲載されている。